

土砂災害による被害を小さくするために

土砂災害は、多くの人命を奪うような大きな被害をもたらす可能性があります。日ごろから各地域や家庭で、風水害・土砂災害時の危険箇所や避難行動について確認しましょう。

やるべきことを確認しよう

災害発生時（災害のおそれがあるとき）

「避難」：土砂災害の前兆現象を発見したら、すぐに避難する。

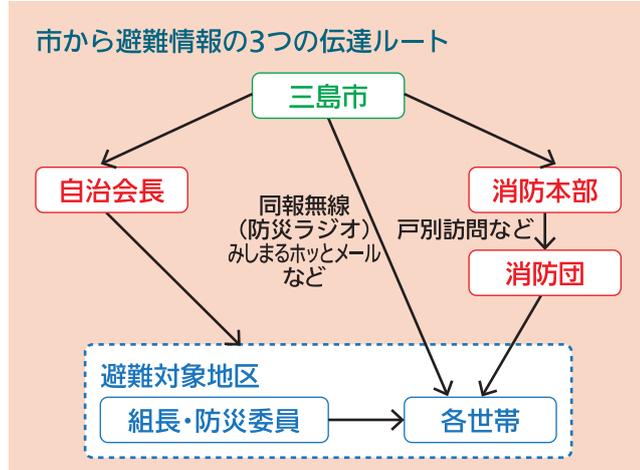
「避難情報」：市の防災ラジオ、みしまるホットメール（市民メール）、地域などの避難情報を受け取れるように意識、注意する。

「気象情報」：テレビやラジオなどの気象情報に気を配る。

平常時

「危険箇所や避難場所、避難経路の把握」：市役所（危機管理課・土木課）の窓口、防災マップ、市ホームページで確認する。

「連絡方法の確認」：自治会長から避難対象住民への避難情報伝達の連絡網を確認、みしまるホットメールに登録する。



みしまるホットメールに登録しよう

みしまるホットメールに登録すると、災害情報や同報無線の放送内容など、各種情報が市からメールで配信されます。

登録方法（携帯電話・スマートフォン用）

- ① t-mishima@sg-m.jp へメールを送信（件名・本文不要）
- ② メール送信後に届く「仮登録完了のお知らせ」メールに記載された URL をクリック
- ③ 表示された登録画面で「利用規約」を確認し、配信を希望する情報を選択して登録
- ④ 「本登録完了のお知らせ」メールが届くと登録完了

土砂災害の前兆現象を知ろう

市内には、105カ所の土砂災害危険箇所があります。そのうち、「急傾斜地崩壊（がけ崩れ）」の危険箇所が82カ所、「土石流」の危険箇所が23カ所です。

それぞれの前兆現象を知り、自分の身を守るための知識を身につけておきましょう。

急傾斜地崩壊（がけ崩れ）の前兆現象

- ・がけにひび割れができる
- ・小石がばらばらと落ちてくる
- ・普段出ていないところから水が湧き出る
- ・普段出ている湧き水が止まる、濁る
- ・地鳴りがする

土石流の前兆現象

- ・山鳴りがする
- ・急に川の水が濁り、木が流れてくる
- ・腐った土のおいがする
- ・川の水位が下がる
- ・立木の裂ける音がする



わたしたちの自主防災組織

押切町内会長 志村 肇 さん

市主催の総合防災訓練に参加し、中学生による担架搬送を実施したところ、災害時に中学生も戦力になることを実感しました。



押切町内会には、5軒に1軒の割合で隊員を確保した「押切防災隊」があり、3年任期で活動をしています。

また、土砂災害への対応として、がけ崩れの危険区域居住者の連絡網を作成し市職員を講師に迎えて説明会を実施しました。訓練を兼ねて、対象者に連絡網で情報伝達を実施したところ課題も見えてきました。

地震災害と土砂災害。より実際を想定した訓練を実施していきたいと考えています。

楽寿園の歴史 宮様、世子様と 三島高女の交流

今回は、十月十一日(土)からの企画展「楽寿園の歴史」にちなみ、現在の楽寿園を別邸とされていた皇族がたと三島高女(三島高等女学校・現在の三島北高等学校)の学生たちとの交流について紹介します。

現在の楽寿園は、もとは明治時代に小松宮彰仁親王の別邸として造られたことで知られています。小松宮は夏の避暑や年末年始などたびたび別邸を訪れており、三島の人々と交流する機会もありました。中でも三島高女との関わりは深いものでした。

明治三十二年(一八九九)に高等女学校令が公布されるなど、女子教育充実の気運が高まっていた明治三十四年(一九〇一)に創立した三島高女は、小松宮別邸の東側(現在の楽寿園正門付近)に校地として借用されていました。当初は別邸内の養蚕室を借用して一

階を教室、二階を寄宿舎とし、借用は寄宿舎を新築する明治三十九年(一九〇六)まで続きました。小松宮は三島滞在中たびたび学校を訪れるなど、三島高女へ高い関心を寄せていました。



▲明治時代の三島高等女学校

明治三十五年(一九〇二)の秋には生徒や職員を邸内に招待して園遊会が行われました。近隣の商店を招いて蕎麦や汁粉、菓子などがふるまわれたほか、小松宮夫妻からのお言葉もあり、生徒一同感動したことなどが新聞でも報じられています。

翌年の明治三十六年(一九〇三)二月に小松宮が亡くなりましたが、同年三月の第一回卒業式では別邸の庭園が開放されています。

小松宮が亡くなった後、別邸は明治末から朝鮮王族の李王世子殿下のものとなります。主が代わ

っても三島高女との関わりは続き、大正二年(一九一三)には李王世子からの御下賜金をもとに李王世子殿下恩賜賞が制定されました。この賞は小学校から皆勤で、三島高女在学中に全学年で優等賞だった生徒に蒔絵の硯箱が与えられるというもので、大変栄誉ある賞でした。

三島高女の校舎は大正十三年(一九二四)に宮町(現在の順天堂大学周辺)に移転しましたが、李王世子恩賜賞の授与は終戦ごろまで続きました。



▲李王世子殿下恩賜賞で贈られた蒔絵の硯箱

三島にとって今も昔も特別な場所である楽寿園周辺の歴史を振り返る企画展は十月十一日(土)から十一月三十日(日)まで開催します。ぜひ、郷土資料館へお越しください。



ふるさとの人物ゆかりの地⑦

吉原 守拙

吉原守拙は、三島における近代教育黎明期の功労者の一人です。

幕末、文武両道の達人の一人といわれ、長沼流兵学や漢学の知識も深く、門人には山岡鉄舟、高橋泥舟などがいました。

明治初期、三島宿の有志から招かれ教師となり、後に伊豆で一番古い公立学校「三島学校」の校長となりました。

守拙は、三島学校の隣(現在の市役所西北付近)に住み、毎日早朝に法螺貝を吹き、鉄の棒を振り回すことを日課とし、鍛錬を怠らなかつたそうです。立ち居振る舞いも美しく、誰に対しても親切丁寧な行動は、教師の手本となり、生徒のみならず、校外でも尊敬されました。

三島の教育振興に努め「三島の聖人」と称えられた守拙は、現在、林光寺に眠っています。



▲吉原守拙